

第2回 障害者支援施設 明朗塾 地域連携推進会議 議事録

1 開催日時・場所

令和8年1月26日、10時01分から障害者支援施設明朗塾会議室において第2回障害者支援施設 明朗塾、地域連携推進会議を開会した。

2 出欠の記録

当日の出席状況は以下のとおりである。

会議の構成員	ご所属・氏名	出欠記録
障害のあるお客様（選定必須）	Y・A様	○
利用者ご家族様（選定必須）	H・K様	○
地域の関係者様（選定必須）	並木良友様	○
福祉に知見のある人（選定任意）	社会福祉法人寿陽会 障害者支援施設 コスモ・ヴィレッジ 施設長 塚本大輔様	○
経営に知見のある人（選定任意）	社会福祉法人清郷会 常務理事三橋郷留氏	○
施設等所在地の市町村担当者（選定任意）	八街市役所 福祉部 障がい福祉課 主査 竹ヶ原慎太郎様	○
会議の運営に必要な職員	障害者支援施設明朗塾	○

3 議事次第について

理事長あいさつ

社会福祉法人光明会の理事長小澤啓洋より開催あいさつを行った。

参加者より各自、自己紹介を行った。

1 第1回地域連携推進会議からの近況報告

1) 第1回地域連携推進会議議事録もとづき協議された事案に対する実施報告について

施設長兼坂渉より第1回障害者支援施設明朗塾地域連携推進会議議事録にもとづき説明を行った。

【Y・A】

・前回に引き続き、顔見知りの方が多くて安心した。前は色々と参加者と接することが出来て良かった。

【H・K様】

・前は初めて参加させていただき大変勉強になった。特に災害時に地域との連携が大切であることが印象深かった。

【並木良友様】

・前回の会議では色々な立場から意見が多く出ていた。とても学びが大きい時間であった。

【塚本大輔様】

・自分が働く施設では地域連携推進会議はまだこれから実施予定である。前に社会福祉法人清郷会様が実施する防災研修に参加したことがあった。近隣地域施設とのつながりから得たことは自分の施設に生かせることが多いと思っている。前回の権利擁護アンケートの結果についても興味がある。

【三橋郷留様】

・前は業務継続計画含めた様々な取り組みを共有いただいた。計画が独り歩きしないよう、現場に落とし込み生かしていく事が重要だと感じた。

【竹ヶ原慎太郎様】

・前の地域連携推進会議では施設から様々な資料が共有された。業務継続計画については改善、見直しする事項も出てきており様々な取り組みを見直す良い機会にもなっていると感じた。特に業務継続計画については災害時に実効性の高い計画、準備をお願いしたい。

2 施設概要の説明

1) 障害者支援施設明朗塾重要事項説明書等より施設概要について

重要事項説明書にもとづき施設概要を施設長兼坂渉から説明を行った。その後、日中、夜間時の人員配置について、緊急対応時のマニュアルについて施設長兼坂渉、副施設長工藤純から説明を行った。その後、BCP、虐待防止委員会、身体拘束化適正委員会の取り組みについて、施設長兼坂渉、サービス管理責任者森田拓実より説明を行った。

【Y・A様】

・自分なりに感染予防は気を付けている。マスクをつけることは大切だと思っている。

【H・K様】

・自分の息子の場合、自分の気持ちを伝えることが苦手。自分のことを自分から話せるような関係性を職員と作れることが理想であるが難しいとも感じている。少しでも自分の中で抱え込まないように自分から発信出来たら良いと感じている。だからこそ職員には上手く聞いてほしい。本人に聞いても何を聞いても「大丈夫」と答えてしまう。本人の正直な気持ちを聞き出すのはどうすれば良いか。悩ましい。

【並木良友様】

・利用者にも色々な性格な人がいる。大人しい子もいれば過激な子もいると感じる。過激な子が暴れてしまった時にそれを抑えたり、制止する時のマニュアルがあれば良いが職員も対応については体現だと感じる。

【塚本大輔様】

・自分の施設においてもどこからが身体拘束なのか悩むときは多々ある。見る人からしたらベルトをしていたら身体拘束と言われてしまう時もある。車いすもしっかりと補装具業者からの処方箋にもとづきベルトを使用している指摘されてしまうケースがある。大きなカテゴリーで括られてしまっても現場に合わないケースは多いと感じている。自傷行為についても「何故その行為をするのか？」がわからないことが多い。基本的には本人のやりたい行動を妨げることが大切だがそのままにも出来ない事象があるとも感じる。

【三橋郷留様】

・施設に行動面で支援介入が多く必要な方がいればその対策に追われてしまう。その際の指針として明朗塾はとても整っていると感じた。虐待通報は義務であり、グレーかどうかは職員ではなく専門機関が決める。だからこそグレーと感じれば即通報することが求められている。半面、虐待を恐れて支援者が何も出来ない環境をつくらないことも重要である。

【竹ヶ原慎太郎様】

・虐待通報については年々、増加している。グレーな支援は何かがあるからグレーになっている。虐待認定にならなくても不適切な支援出る可能性もある。施設職員がフラットな目線で支援を振り返る習慣が必要である。

3 地域連携推進員による施設見学

障害のあるお客様の生活についてご本人様より近況報告を行った。

【Y・A様】

・自分が済んでいるドアが壊れている。開けづらいのですぐに直してほしい。食事はおいしいがもう少し味付けは濃い方が売れたい。外出の機会もあるが団体でいくのは嫌い。縛られている感じがする。ゆっくり自分のペースで外出したい。自分でお金をやりくりして外出したい。先日は千葉に自分で外出し靴をみたり、コーヒーを飲んだりして嬉しかった。

障害者支援施設明朗塾の施設内、施設外の見学を実施した。

【H・K様】

・部屋が明るいと感じた。お風呂場は長年入所を利用しているが初めて見学した。床は怪我に繋がる危険があると感じた。手すりなどの準備をした方が安全と感じた。仕事場もとても明るく良い雰囲気であった。

【並木良友様】

・初めて施設内の設備を全部見してもらった。みんな、楽しく活動していると感じた。明朗塾も26年たてば老朽化している箇所も多くあると感じた。その中でも他の施設も見たことがあるが明朗塾は奇麗であると感じた。壁のへこみが多いと感じた。例えばコルクなどの壊れにくい材質に変更などは出来ないのだろうか。26年経ったがこれからも上手に頑張ってほしい。

【塚本大輔様】

・利用者の方々がそれぞれ生き生きと活動しているように感じた。

【三橋郷留様】

・自分の法人の施設もほぼ、明朗塾と築年数は同じ、インフラ関係の整備にはお金が莫大にかかるケースがある。補助金含めた準備を今から始めていく事が重要である。

【竹ヶ原慎太郎様】

・利用者の表情がとても明るい感じた。とても開放的な印象。施設というと暗いイメージもあったがそこは印象が変わった。

4 その他

参加者から意見はなかった。

以上をもって12時04分、本日の地域連携推進会議を閉会した。